

月刊 さいとう健

LIBERAL&DEMOCRATIC

自由民主

発行所: 自由民主党本部 定価1部110円(税込) 毎週火曜日発行
住所: 〒100-8910 東京都千代田区永田町1-11-23
電話: 03-3581-6211(代表) ホームページ: <http://www.jimin.jp/>

《 ミニプロフィール 》

昭和34年、小さな写真屋に生まれる。
大学時代は、ハンドボール部のキャプテンとして活躍。
零細企業に育ったこともあり、中小企業を担当する通商産業省に入省。
日米交渉や道路公団民営化、地方行政(埼玉県副知事に outward)などに携わる。
平成18年衆議院千葉七区補欠選挙にて公募により選ばれるも、惜敗。
平成21年衆議院総選挙において、初当選。5期目。環境大臣政務官、
党副幹事長、党農林部会長、農林水産大臣、予算委員会理事、党総務
会長代理を経て、現在、法務大臣として重責を担う。
[趣味] ハンドボール、カラオケ、読書、映画
[好きな食べ物] ラーメン、焼肉(特にカルビとハラミ)
[尊敬する人物] 高杉晋作、原敬、鈴木貫太郎



やっぱり、
この男だ!

6月号
令和5年5月22日発行

「法務省の 仕事から」

昨年11月に法務大臣に就任し、約半年が経ちました。臨時国会開会中の突然の就任であり、さいとう健にとりましては、なかなか苦勞の多い半年間でありました。
今回の「月刊さいとう健」では、法務行政に携わりながら、いくつか気づいた点を皆さんと共有したいと思います。

再犯防止

法務省は、社会の治安を守る仕事が大きな柱の一つになっています。ざっくり申し上げますと、事件が起こりますと、犯人を捕まえるのは主に警察の仕事、刑を決めるのは裁判所、そして、刑を執行するのは法務省の仕事となります。なので、刑務所の管理は法務省の仕事となります。

そういうことで、就任して間をおかず、府中の刑務所などを視察いたしました。府中の刑務所では、入所期間がひとり平均で3年1か月でありました。驚いたのは入所回数です。なんと一人平均5回だったのです。つまり、1回3年1か月で5回入所しているということは、平均でひとり10年以上入所しているということになります。10年も刑務所に入っておりますと、社会に出ても適応しづらく、再度犯罪に走るということになりかねない。

実際に、検挙された犯人が再犯者である再犯者率は、実に48.6%。約半分です。

このことから、世の中の犯罪を減らすには、再犯を減らすことが極めて重要ということになります。

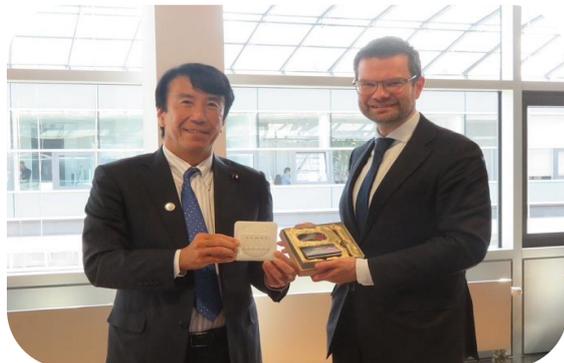
法務省では、この再犯をいかに減らすかという任務も担っておりまして、大臣就任後の本年3月、政府として再犯防止の取り組みを強化するため、今後5年間にわたる「第二次再犯防止推進計画」を閣議決定しました。

この中では、犯罪を犯した者などが、地域社会の中で孤立することなく生活の安定が図られるところが大事だということで、相談拠点や民間協力者を含めたネットワーク拠点の構築や、国・地方公共団体・民間協力者等との連携強化のための施策が盛り込まれております。

さいとう健が感銘を受けましたのは、一度過ちを犯した方々を何とか立ち直らせようと、まさにボランティア精神で活動されている方々の存在です。保護司や更生保護女性会の皆さん、そして、協力雇用主の皆さんの活動には本当に頭が下がります。こういった方々と、一度犯罪を犯しても立ち直れる社会に近づけるべく力を尽くしていきたいと思っています。



イタリアのカルロ・ノルディオ司法大臣と会談。
7月開催のG7司法大臣会合に向け協議。



ドイツのマルコ・ブッシュマン司法大臣と会談。
テューゲル刑務所では日本と異なる環境を実感。

アジアの国々と

次にお話したいのは、アジアの国々が法整備をするにあたって、法務省が長年にわたり実に重要な貢献をしてきているということです。さいとう健はここまで貢献しているとは思っていなかったもので、不明を恥じねばなりません。

日本語で日本の法律を学ぶ。この難しい課題に挑戦し、帰国したら国の発展のために生かしたい。そういう高い志をもって日本で学んでいるアジアの学生たち。その一部の方々と話す機会を得ました。

法務省と連携して法整備支援事業を展開している名古屋大学の法政国際教育協力研究センターに留学中のウズベキスタン、ベトナム、カンボジア、モンゴルからの4名です。彼ら彼女らは国に帰ればエリート中のエリートで、中には、政府の中で高い地位を得て、国をリードしていく方もいる。そういう方々が、私に対して、国に帰ったら祖国の発展のためにこうしたい、ああしたいと熱を込めて真剣に話すんです。一番驚いたのは、そのきらきら光る眼とさわやかさでした。こういう素晴らしい若者が、おそらくそれぞれの国で次の時代を切り開いていくんだらう。そう思うのと同時に、かつて、ドイツに留学し夜も寝ずにドイツ憲法を勉強していた伊藤博文も、おそらくこんな眼をしていたのではないかと思ったりもしました。

こういった法務省の仕事は、目立たないかもしれませんが、将来、国に帰った彼や彼女を通じて、日本とアジアの国々との関係の強化に必ず役に立つと確信しています。



京和ガススポーツパークのこけら落としに参加。観客席からの応援に熱が入ります。



少年サッカーの開会式で挨拶。ケガをしにくいグラウンド整備にも取り組んでまいります。



子どもたちと一緒にアブラハムダンス♪
さいとう犬からの手紙は届いたかな？



関宿城さくらまつりにて挨拶。甲冑隊の武者行列も再開し、賑わいが戻りました。

メルマガさいとう健

名前・住所の登録不要。

月刊さいとう健では伝えきれない内容満載。

返信すれば匿名で意見を伝えられます。

<http://www.saito-ken.jp/info/melmaga.html>



討議資料

～ 後援会入会はコチラまで ～

さいとう健 後援会事務所(流山おおたかの森駅 北口すぐ)
〒270-0119 流山市おおたかの森北1-5-2セレーナおおたかの森2階
TEL: 04-7190-5271 FAX: 04-7190-5272 E-mail: info@saito-ken.jp
さいとう健 国会事務所
〒100-8981 千代田区永田町2-2-1衆議院第一議員会館822号室
TEL: 03-3508-7221 FAX: 03-3508-3221